カリフォルニア州の発達障害に係る委員会（SCDD）は、知的/発達障害を抱える方々およびその家族が同州において、自らが選択したコミュニティにおいて充実かつ独立した生活を送るために必要とする情報、サービスおよび支援を確実に受けられるようにするという使命を帯びています。

カリフォルニア州の発達障害に係る委員会は、同州の計画に係るアンケート調査に数多くの人々が回答されたことに感謝申し上げます。オンラインおよびコミュニティにおけるトレーニングとイベントを通じて合計 6,329 件もの回答を受領しています（調査票は、英語に加えて英語以外の 17 か国語で作成されました）すべての回答は、委員会のデータベース（Qualtrics）に入力され、カリフォルニア州の知的/発達障害を抱える方々、その家族、およびその他の者にとり最重要な問題を明らかにするために分析されました。

アンケート調査の回答によれば、人々は雇用、住宅、教育そして保健/安全の分野に最も懸念を抱いていることが示されています。知的/発達障害を抱えた方々は、雇用が自分たちにとり最も重要であると語っています。私どもの職員は、496 件のスペイン語のみの調査票を含め、合計 1,530 件のヒスパニック/ラティノ語の調査票を受領しました。スペイン語を話す人々にとっては、教育が最重要な懸念の対象でした。

委員会の業務に関する連邦政府の要件に基づき、提案されている目標は、次のようなセルフ・アドボカシー、システム・チェインジ/アドボカシー、および能力開発・アドボカシーの 3 分野に分かれています。州計画の目標のために、職員は、カリフォルニアの人々が、当委員会がどのような業務を遂行することを求めているのかという点について分析しました。この分析作業には、トレーニング、技術支援、特別なイベントとプロジェクト、ならびに情報とリソースの提供が含まれていました。政策、特別なプロジェクト、およびシステム・チェインジの業務のため、当委員会の構成員は、雇用、教育、住宅、そして保健/安全に焦点を絞ることを決めました。トレーニングと技術支援のため当委員会の職員は、障害を抱えた人々とその家族にとり重要な領域のすべてについての情報、トレーニング、およびリソースを提供するものとします。

当委員会が計画しているアクティビティの件数と対象となる人数は、次のような要件に基づくことになります：１）提供されたアクティビティ件数と対象となった人数を含め、過去 5 年間に完結した業務の分析；2）当委員会の職員の対応力と利用可能なリソース；当委員会の年間活動計画の策定と遂行。州計画案の目的の各々に規定されている数値は、次の州計画期間（2022 年から 2026 年まで）の 5 年間にわたり分けられることになります。

この調査に対する回答（そして数千件ものコメント）および当委員会の職員の調査に基づいて、当委員会の州計画小委員会は、提案されている州計画を策定しました。当委員会は、現在その提案する 2022 年から 2026 年までの州政府計画に係るパブリックレビューやコメントをお願いしているところです。
このパブリックコメントの提出期間は 45 日間です。

提案されている 2022 年から 2026 年までの州計画

第 1 目的：セルフ・アドボカシー

当委員会は、知的/発達障害を抱えている方々が強力なセルフ・アドボケイター、ピア・トレーナー　およびコミュニティ・リーダーになることを可能にします。

第 1 目標

当委員会は、次のような場面において 1,250 人のセルフ・アドボケーツを強化するために、情報、リソースおよび 125 のトレーニングを提供します：

1) 人々が必要とする支援とサービスを確認するとともに、要請すること；

2) ピア・トレーナーとなり、その任にあたること；および、

3) 自身とその家族にとり重要な課題に対する強力なアクティビストとして関与するのための技量と機会を高めること

第 2 目標

当委員会は、少なくとも一つの州全体を対象とする主体および 12 のセルフ・アドボカシー主体、合わせて 6,000 名のセルフ・アドボケーツを通じた便宜、形の見える支援およびピア・アドボカシー/リーダーシップの機会を提供することにより、ピア・ネットワークに属するセルフ・アドボケーツ達を支援します。

第 2 目的：システムチェンジ/アドボカシー

当委員会は、公民権の保護と強化に加え、コミュニティ・ベースのシステムを知的/発達障害を抱えた方々とその家族をより完璧な形で包含し支援するものへと改善するために家族/セルフ・アドボケーツおよびその他の者とのパートナーシップの中でリードします。

第 1 目標

当委員会は、地域センター、コミュニティ・ベースのサービス、および政府機関のシステムに係る 30 項目の慣行、15 項目の方針および 10 項目の規制（またはガイダンス）および法律の双方またはその何れかの構築、改善、変更のすべて、またはその何れかを実施します。この作業には、知的障害/発達障害を抱える方々の恩恵となるとともに、その公民権の保護、完全な包含の推進、および追加的な支援とサービスの提供のすべて、またはその何れかを推進し、これらの人々の生活を形あるものに改善するための雇用、教育、住宅、そして保健/安全の分野における活動が含まれます。

第 2 目標

当委員会は、雇用、教育、住宅、そして保健/安全の諸分野において 20 件の地域的そして 5 件の州全般を対象とする革新的/特別プロジェクトとイベントのすべて、またはその何れかに関与し：

1) システム・チェインジの努力のために 5,000 名の人々（家族/セルフ・アドボケートその他の者）を強化させるとともに、情報、技量と効果的なアドボケーツとしての能力を向上させるための支援のすべて、またはその何れかを賦与します。

2) 知的/発達障害を抱えた方々とその家族に対する支援を改善するためのサービスを増加させることの双方、または、その何れかを実施します。

第 3 目標

当委員会は、カリフォルニア州の 4 つの連邦政府機関パートナー（1 つの保護/アドボカシー機関および 3 つの大学のエクセレンス・イン・発達障害センター）と協力し、教育、雇用、住宅、保健または安全などから州計画において強調すべき分野を 1 つ選択することにより知的/発達障害を抱えた人々に影響を与える遺伝サービスシステムを評価し、遺伝サービスシステムの現在知的/発達障害を抱える人々（リージョナル・センター・システムが対象としている/対象としていない人々の双方を含め）に対するサービスの方法、システム内におけるサービス提供に係るギャップ、ＤＤ法の目標を達成するために現在のシステムをどのように改善するかという点に係して勧告するとともに、政策および慣行の変更を追及するものとします。この協力により、既に、2 件の報告書、政策または慣行変更に係る 6 案の提言および 2 案の政策または慣行の変更が達成されています。

第 3 目的：能力開発/アドボカシー

当委員会は、知的・発達障害を抱える方々とその家族と協働するとともに激励することにより、それらの人々が自らの権利について知り、支援およびサービスについて唱導し、受け取ることができるようにします。

第 1 目標

当委員会は、州全体で 60,000 名の人々（家族、セルフ・アドボケーツ/その他の者）に対し、（スタッフがリードする、仲間がリードする、およびコラボレーション）の形式のトレーニングをバーチャル、オンライン、および対面形式のすべて、またはその何れかで提供するとともに、技術的支援 (TA)/アドボカシークリニックを提供し、知的/発達障害を抱えた方々が安全かつ健康的な生活を過ごすことができるようにする支援とサービスを確認し、獲得するための支援とリソースを擁して 50,000 名の知的/発達障害を抱えた方々に手を差し伸べます。

第 2 目標

当委員会は、雇用、教育、保健/安全、および新しい問題に係る 100 件ものプロジェクトとイベントに参画し、人々にとり重要な支援およびサービスを獲得するための知識を高めるとともに、その能力を高める情報およびリソースを擁して 25,000 名の人々（家族/セルフ・アドボケート/その他の者)に手を差し伸べます。

第 3 目標

適切な公教育を無料で受けるうえでの格差を減らすために、当委員会は、州全体を通じ、5,000 名のスペイン語を話す家族/セルフ・アドボケートとともに協働し、人々が自らの居住地の教育機関を通じて受けられる特別教育サービスの件数および種類/品質を高めることを唱導し増加させます。

あなたの考えを共有してください